

設 立 趣 意 書

高山本線は、昭和9年開通以来ここに30年間幾多の変遷に耐え、中京、岐阜、飛騨、北陸などわが国の中央部を横断する交通の大動脈として、産業文化の進展に貢献してきました。

しかしながら、日本経済の急速な発展なканずく本線に関係する中京、岐阜、飛騨、北陸における経済成長はめざましく、幸いに将来工業地帯、農林水産並びに地下資源地帯、観光資源開発地帯など、新時代に相応した開発が各県において総合的に推進されんとしております。

しかるに、交通運輸の基幹である高山本線の現状は、増大する輸送需要に比し、まことに弱体であって、沿線各都市間の近代的産業経済の交流は勿論、地域開発の進展はまったく阻害されております。

即ち、貨物の他線迂回輸送、配車不円滑及び旅行通勤の不便もその一つのあらわれであり、不合理、不経済を余儀なくされており、この点の解決は一日も延ばすことが許されない情勢であります。特に38.1豪雪による北陸本線の不通時において、高山本線は北陸地方客貨輸送の災害救援路線として大きな役割を果たしたことは、重視すべきものがあります。

しかし、現在の高山本線はこうした問題を解消し、真に時代の要請に即し、その近代化を図るためには、技術的に諸種の困難を有するものであり、従って、一大英断をもって抜本的な対策を全面的に講ずることが最も急務と存じます。

もとより、国鉄当局におかれては、つとに本線の改良強化計画を具現するよう努めておられますが、今回発表の国鉄第3次整備計画にも依然として本線に関する近代化計画が明確化されていない現状は、まことに遺憾に堪えないところであります。

高山本線の複線電化の早期完成は関係者一同の切実なる願いであり、かつまた関係地域住民の声であります。

この際、各県の関係者が一体となり、総力を挙げ世論を喚起し、もってその旨を中央に反映せしめ、本線の輸送力を増強することが極めて緊要なことと存じます。

即ち、高山本線の複線電化を目標に一日も早く完成を念願し運動を展開せんとするものであります。

昭和39年11月18日

高山本線強化促進同盟会